

## 第 11 部 プログラムの作成

設計が終わったら、プログラミングが始まる。

第 26 章は、そのプログラミングについて議論する。最近では、情報システムの開発で企画が大切であるとか、要件定義がポイントだなどと議論されている。それは、全く正しい。しかしソフトウェア技術者の立場からすれば、やはりプログラムの作成が情報システム開発の核の作業ということになるだろう。

第 27 章は、「超高速開発」と呼ばれている開発方法について考える。第 11 部はプログラミングについての部ということにしたが、超高速開発ではプログラミングの作業はない。その意味で超高速開発をここに置いたのは、逆説的な意味になってしまったかもしれない。このテーマは重要なテーマなので、本来はこの議論 1 つで 1 つの部を用意すべきだったかもしれない。

第 28 章は、オープンソース・ソフトウェアについての議論である。ソース・プログラムを公開するかどうかはここでは議論になるわけだが、超高速開発でプログラミングの作業がなくなれば、ソース・プログラムも意識されなくなるのかもしれない。あるいは超高速開発の時代になっても、オープンソース方式で開発される類いのプログラムは超高速開発の枠の外に置かれて、やはりプログラマが開発を行っているという形が残り続けるのかもしれない。

